

学校法人 米田学園 米田柔整専門学校

学校関係者評価報告書

(令和元年度)

<<評価項目一覧>>

- 1 教育理念・目標
- 2 学校運営
- 3 教育活動
- 4 学習成果
- 5 学生支援
- 6 教育環境
- 7 学生の受入れ募集
- 8 財務
- 9 法令などの遵守
- 10 社会貢献・地域貢献

令和元年度 学校関係者評価委員会報告

学校法人 米田学園 米田柔整専門学校 学校関係者評価委員会は「令和元年度 自己評価報告書」の結果に基づいて学校関係者評価を実施したので、下記のとおり報告する。

1. 学校関係者評価委員

業界関係：森川伸治

卒業生：杉浦光幸

加納功詞

有識者：森 虹輝

2. 令和元年度 自己評価に対する学校関係者評価

評価項目	評 価	評価に対する今後の学校の取組
教育理念・目的	<p>教育理念は本当に大切であり、それを共有することで学生を同じ方向に向けてモチベーション向上につなげて欲しい。また、学校の理念だけでなく学生自身の理念も大切だと感じているため、柔道整復師としての将来を考えさせる時間なども与えてはどうか。</p> <p>教育理念の中で医接連携が掲げられているが、卒業して間もない頃は紹介状に何を書いてよいか分からない方が多い。診察内容はもちろんだが、医師に対する配慮を含めた文章や言葉遣いなど細かな部分で指導が必要になるため、学校教育の中でその基礎を伝えられるとよいと感じた。</p>	<p>学生自身が理念を持つことはとても大切だと感じている。柔道整復師として生きていく中で、自分自身がどう社会及び患者さんに貢献していくかを学生自身のビジョンとして描くことができるようにアドバイスしていく。</p> <p>医接連携は非常に重要な教育理念の1つである。3年生では医療機関での臨床実習を行うため、紹介状の書き方を実際に練習している。その前段階として適切な診察が行えることが重要であるため、根拠のある診察を行い、丁寧な文章を医師に提供できる土台を作っていきたい。</p>
学校運営	<p>BSC 会議において中長期のビジョンが決められてPDCAが恒常的に回っていることは評価できる。業界からの視点としては施術録への記載が乏しいことが柔整業界の問題の一つである。学校教育の段階からそこを徹底させて欲しい。</p>	<p>柔道整復師の基本は適切な診察の上で施術録へ詳細に記録を残すことなので、BSC 会議の中でも今一度その教育の必要性を検討していきたい。その上で、施術録への記載の徹底を学校教育の中での重点項目として進めていく。</p>

<p>教育活動</p>	<p>年度末からの新型コロナウイルス感染症により多大な影響を受けている。対面は難しいが、遠隔で学外の人間とコミュニケーションをとることで意識が変わる学生もいるはずなので、積極的に遠隔実習を行っていただきたい。我々も力になれる部分は助力していく。</p>	<p>感染症が蔓延する状況でこれからの教育をどのように行っていくべきか知恵を出し合って解決していく。</p> <p>実技授業に関しては手指消毒、フェイスシールドなどを使用し、感染予防に努めながら実施すべきか否かの境界線を見極めながら進めていきたい。</p> <p>この機会を衛生管理の重要性を学ぶよい機会と捉えて、学生自身の衛生管理の意識向上に努めたい。</p>
<p>学習効果</p>	<p>新型コロナウイルス感染症が収束しなかったら次年度からは遠隔での授業も検討するのか。遠隔授業によるメリットもあるかもしれないが教育格差には注意が必要と感じている。モチベーションの高い学生は手法が変わっても対応できると推測されるが、モチベーションの低い学生や課題を一人で消化しきれない学生が存在すると思われる。他にも教員と学生とのコミュニケーション時間が減ることも懸念材料である。</p>	<p>対面授業に比べて学習効果の格差は開大すると予想される。遠隔授業期間中は教員から学生に対して積極的に電話するなどして必要なコミュニケーションは確保していく必要があると思われる。学生、及び職員の安全を第一に考え、最適な教育方法を検討していきたい。</p>
<p>学習支援</p>	<p>以前は保護者への報告などはなかったが、現在の状況なども踏まえると保護者とのコミュニケーションは密にとっていくべきだと考える。家庭環境の違いも新型コロナウイルス感染症の影響を受ける大きな要因となると考えている。</p>	<p>遠隔授業を始める上での最大の課題は学生の通信環境を一律にすることである。Wi-Fi環境がない学生に対してどのように対応するかなど課題は山積みである。</p> <p>保護者との連絡は基本的に書面で行っており、今後双方向コミュニケーションの充実を図っていく必要性を感じている。</p>
<p>教育環境</p>	<p>合格率は相変わらず高いレベルで推移していることは素晴らしいが、留年などは減らないのか。</p> <p>米田柔整の魅力は米田病院という金字塔があることであり、そこで保存療法や様々な医療を学べる文化がある。さらに多くの卒業生との関係性を活かし、充実した実習環境をさらに整備していただきたい。</p>	<p>留年に対しては再試験制度を導入することで軽減してきている。一方で学習の習熟度が低いまま進級することで、国家試験の合格率に影響がでないように全学年を通じた対策は必要となる。</p> <p>次年度は感染症に配慮した中での実習がどこまで行えるか早急に検討を重ねていく所存である。</p>

<p>学生の受入れ募集</p>	<p>女性にターゲットを絞るのは良いと思う。最近の女子学生は努力する子が多い印象であり、さらに増やしていくことで業界のイメージもよくなると思われる。</p> <p>臨床経験の豊富な指導者がいて、実技教育を教えなくては意味がない。本校はその意味では十分に満足していると思うが、外傷を診ることのできる柔道整復師の輩出を売りにする戦略が必要だと思われる。</p> <p>入学者が少ない状況には驚いている。47都道府県すべての現場も疲弊しており、療養費の取り扱いも減少傾向が続いている。また、トレーナー志望の学生が多いと聞いているが最終的にトレーナーだけでやっていけない現実を知っているのか疑問である。</p>	<p>全体的に女子学生はまじめに取り組む割合が多いと感じている。スポーツトレーナー育成に対しても女子学生が多く参加しており、これからはスポーツトレーナー×女子学生も一つの構図として期待している。</p> <p>新型コロナウイルス感染症により満足した実技授業は行えないと予想されるが、動画撮影することにより、今だからこそできる教材作成を行うことで後世に活かすことが期待できる。</p> <p>学生募集は最重要項目として引き続き最大限の力を注いで、80名の定員を満たすべく、職員全員が一致団結していく。</p>
<p>財務</p>	<p>夜間部がなくなるのは非常に残念だが、財務の観点からすると致し方ない決断だと思われる。いち早く学生募集を巻き返して新たな時代の米田柔整専門学校スタイルを築き上げていただきたい。</p>	<p>夜間部がなくなる代わりに午前中で終わるクラスを立ち上げる予定である。夜間に勉強するよりも今の時代にマッチした構成だと思うが、まだ募集に関しては楽観視できない状況である。</p> <p>また、国家試験対策講座として米田塾を始める予定なので、学校と米田塾が相乗効果を生むように仕掛けていきたい。</p>
<p>法令などの遵守</p>	<p>学生や職員が新型コロナウイルス感染症に罹患した場合も想定して保健所や保護者などへの対応を考えておくべきである。</p>	<p>新型コロナウイルス感染症に対しては慎重に対応していきたい。</p> <p>継続的にBSC会議を行い、中長期の方向性を示して、全学体制でこの危機を乗り越えていく。</p>

<p>社会貢献</p>	<p>外傷を扱える柔道整復師を育てていくことが重要である。巷では骨折疑いで来院した患者さんに対して整復せずに病院へ紹介したにも関わらず整復料を算定する事例もある。柔整が柔整でなくなってきている。当たり前の事が当たり前にできていない状況があるため、そこは課題として取り組んでいく必要がある。</p>	<p>一番の社会貢献は質の高い卒業生を社会に送り出すことと考えている。当たり前のことが当たり前に行えるには本人の気づき、覚醒が必要な場合も多いため、知識、技術だけでなく、人間性を高めることのできる教育を常日頃から意識して行っていきたい。</p>
-------------	--	--

【総評】

年度末より新型コロナウイルス感染症が蔓延する状況で、次年度以降の教育の方法を含めて質を確保するのに大変な状況である。まずは学生、職員に対する感染症対策が急務であり、この危機を乗り越えていくには学校関係者の力も必要であるため、協力できる部分は協力していきたい。

学生募集は試行錯誤しているが、結果として結びつくために方向性をしっかり見定める必要性を感じた。柔道整復師の本質は外傷を診ることであるため、スポーツトレーナーだけでなく、柔道整復師の本質が学べる教育は継続していただきたい。

学校運営としては中長期の目標をしっかりと定めているので、ビジョンをもとに PDCA を回すことで業務改善を図れていると感じた。新たに新型コロナウイルス感染症に対するタスクが急増すると思うが、臨機応変に対応し、遠隔でしかできないことに挑戦してピンチをチャンスに変えていって欲しい。

以上